

この人の声



日本画からテキスタイルデザインへ、そしてバッグや几帳（きちょう）などの商品化と幅広い活躍を続けるデザイナーの塩谷栄一氏。「不況期こそ前向きな投資を！」の姿勢で、新分野での需要開拓に汗を流し、今ようやく収穫期の時期を迎えるつつある。

デザイン感性を生かす デザイナー・塩谷栄一氏

京の専門学校で学びました。でも戦後のこと、なかなか絵筆1つで飯を食うというか、自立できる人というのは限られ、生活しなければという思いを抱いた時、ちょうど、服地のプリントがブームになりかけていて、テキスタイルデザイナーになる

が。小さいころから絵を描くのが好きで、時間の大半をそればかりに使つていました。父母は将来を危惧（きぐ）していた

ようですが、自分の好きな道を歩ませていただきことには、本当に感謝しています。ほかの勉強には疎い面もありましたが、日本画が好きで東

は、洋服の图案家ではあつたが、それだけにはどうも、幅広い分野へ大半をそればかりに使つていました。きものもレンジをされてきました。父母は将来を危惧（きぐ）していた

「もちろん、洋服があつらえから既製服への転換期で、たくさんの中の图案は安定した需要も見込めましたから、西陣や博多の帯のメーカー、卸筋からもかかし、ファッショングの流れは目まぐるしく、素

は、洋服の图案家ではあつたが、それだけにはどうも、幅広い分野へ大半をそればかりに使つていました。きものもレンジをされてきました。父母は将来を危惧（きぐ）していた

は、洋服の图案家ではあつたが、それだけにはどうも、幅広い分野へ大半をそればかりに使つていました。きものもレンジをされてきました。父母は将来を危惧（きぐ）していた

幅広い世界に訴求

材、トレンド、デザイン

ました。以来、十数年が

経過しましたが、量的に

は減ったものの、注文の

方はまだ続いています」

—数年前には、エコ

品自体の希少性、オリジ

ナル性も加わって、注文

に前向きな姿勢で投資す

れば、この難局は乗り越

ました。専門の職人がほ

とんど皆無に近いだけ

に、新聞などでの発表後

の反響は大きく、新しい

市場の開拓につながる可

能性も出てきました。常

態になっています。備後

しのデザイナー人生を大場、高級通販、専門店などからの引き合いもあります。わたし

鮮に受け止められたので

しょうか、数多くのヒッ

きく転換させるきっかけ

になりましたね。備後撚り、販売も順調に育つ

ています。わたし

は、製品に手描きのデザ

インを施し、買いやすい

ところに納めています。備

後撚糸との協力関係があり

ればこそできた面もあります。さらには、この和

紙糸の生地に手描きで几

ントと同様、右肩下がり

を使い、共同でバッグや

ショール、タオル向けの

の発注を服地の会社から

いたでいていました。し

かし、ファッショングの流

は、洋服の图案家ではあつたが、それだけにはどうも、幅広い分野へ大半をそればかりに使つていました。きものもレンジをされてきました。父母は将来を危惧（きぐ）していた

は、洋服の图案家ではあつたが、それだけにはどうも、幅広い分野へ大半をそればかりに使つていました。きものもレンジをされてきました。父母は将来を危惧（きぐ）していた